

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	広報広聴特別委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 池永
日 時	平成24年11月7日(水曜日)		開 議 午後 3 時 32 分
			閉 議 午後 4 時 38 分
出席委員	菱田 福井 苗村 山本 西村 明田 石野 木曾議長		
事務局出席者	今西局長、藤村次長、阿久根係長、三宅、池永		
傍聴者	市民 名	報道関係者	- 名

会 議 の 概 要

15 : 32

1 開議

- 菱田委員長あいさつ -

2 議事

(1) 一巡後の議会報告会について

<菱田委員長>

アンケート結果を集約したものを配付した。これに基づき進行する。まず議会報告会に対する考え方を整理したい。

(1) なぜ議会報告会を行うのか。

<明田委員>

基本条例第7条の通りで良い。

<西村委員、苗村委員、石野委員、山本委員>

第7条の通りで良い。

<福井副委員長>

報告をするのか広聴をするのか、「議会報告会」という名前を含めてははっきりすべき。報告をし、何でも良いから意見を聞くというスタイルで良いのか。

<菱田委員長>

名称を検討する必要がある。

<福井副委員長>

趣旨はそれで良い。名称は後で検討を。

(2) 市民は報告会に何を期待しているのか。

<明田委員>

具体的に何を期待しているのか市民ニーズが把握できていない。行政への要望が多い。

<苗村委員>

基本条例で「市民と自由に情報及び意見を交換する」となっており、名称も「市民

と語る会」と追加したので、そこをアピールするような形に変えていくのは必要。参加者はまだごく1部の人であり、何を期待しているかはアンケート等を見なければ分からないが、議会には期待しているのではないか。

<石野委員>

各町にはまだ1回行っただけであり、参加者自体も少ないので、もう少し時間をかけて報告会を浸透させていくべきではないか。

<菱田委員長>

今のスタンスのまま取り組むということか。

<石野委員>

そうである。

<山本委員>

市民の期待が2つに分かれている。報告はだよりを見たら分かるので、それよりも自分たちの地域要望を聞いてほしいと思って来ている人もいれば、「何を質問しようか」と議会だよりをチェックして来られ、議員の活動内容を理解して帰る人もいる。1回の参加で我々がしようとしていることを理解いただくのは難しい。どんなことをするのだろうと期待しながら来られるのが現状ではないか。

<西村委員>

要望や不満を語る人が多い。参加人数が増えてきたら、来た人の意見を聞く耳をもっと持たなければならない。説明で30分、質疑は1時間30分くらいやらないと、形式的にやっていると思われる。多くの人の意見を十分に聞くように、要望等をしっかり聞いていく場にしては。

<福井副委員長>

賛成。現状は報告に行っているのか、聞きに行っているのか分からない。ゆくゆくは政策論争がしたい。それには「議会報告会」で良いのか。

<菱田委員長>

報告会という名称により目的がうまく伝わっていないなら、名称は今後の議論としたい。最初は仕方なく報告会に来られた人もあるだろうが、市民と意見交換したことが市政に反映していけば、市民の意見を活かす最たる機会となる。じっくり腰をすえて方向を見出していかなければならない。

議会報告会の拡大について

<菱田委員長>

これからの拡充を何のためにやっていくのか。あえて言えば、より多くの市民の意見を聞き、こちらからもPRをしていく機会づくりということであると考え。今後の取り組み方について意見を。

<山本委員>

自治会は今まで通り2年に1回とし、世代別や色々な人を対象にしたものを導入しては。

<石野委員>

自治会へは2年に1回とし、その間に各種団体対象のものを入れては。

<苗村委員>

自治会を通じてのやり方は今まで通りでも良い。先ほどの白山市とのやりとりで、報告会ではなく常任委員会として懇談をもつという内容があった。各種団体や年代別のものなど、今までと違うようなやり方は考えていっても良いが、その中心は常任委員会となるのではないか。ただ、充実はしていく必要はある。

<西村委員>

自治会は1年で一巡すべき。各種団体との意見交換も行ってはどうか。

<明田委員>

できれば1年で一巡したい。政策論議をやるなら、委員会ごとの出前等でやった方がよい。広報広聴でそこまで踏み込むのは大変。また、今まで参加者が少ない会場があった。呼びかけの方法に工夫が必要。

<菱田委員長>

各自治会を1年で一巡すべき、各種団体は委員会で対応してはどうかという意見が出たが、そもそも拡大の目的としては、より多くの市民の意見を聞いていく機会を作っていくという位置づけで良いか。<了>

<菱田委員長>

先般、産業建設常任委員会で商工会議所の工業委員と意見交換を行った。そのような様々な団体と議会の意見交換の機会が増えて然るべきであるが、そのスタート地点が各自治会をまわる報告会である。報告会は、一年で一巡する方向でいたい意見が整ったが、その方法はどうか。

<苗村委員>

現実的なのは3会場×2日である。報告のやり方も検討しなければならないが、委員会の審議に加わった人でなければ質問に回答できないこともある。それを踏まえて1会場に最低何人が必要なのか割り出す必要がある。

<菱田委員長>

今の人数割りではどうか。

<石野委員>

15期は今のままで良いと考える。

<山本委員>

人数は今のままで良い。

<西村委員>

議員全員で年2回、全自治会をまわっては。全員で行くと重みが違う。やるからにはその方が説得力がある。今の人数より減らすと、後退していると捉えられる。

<明田委員>

3～4人で自治会に行くのは失礼。8人程度は行く必要がある。それで考えると、3会場×2日にしなければ1年で一巡できない。

<福井副委員長>

全員で行くかどうかは別として、年2回でも良いので数日かけて全自治会に行ければ良い。人数は内容による。常任委員会の報告をするなら現状の人数は必要だが、意見を聞くのがメインならば3人でもできるかもしれない。いずれにせよ1年で全自治会をまわらなければ意味がない。そのやり方の工夫をする必要がある。

<菱田委員長>

どのくらいの規模で行くと市民は行く気になるのか。議員の負担も考え2～3班にするのも1つである。

<木曾議長>

全員で行っても3班に分かれても、参加人数は変わらないのでは。また、通年議会になった場合にどうするか、議会改革推進特別委員会の議論を見ながら進めていくのも1つである。

<菱田委員長>

とりあえず4定例会を前提に本日の議論を進める。アンケートで一番多かったのは

「定例会ごとに3会場×2日」の意見であったが、何件くらいあったのか。

<事務局>

手元に資料がないが、5～6件はあったのでは。

<菱田委員長>

全議員が行くのも良いが、今までの参加人数を見ると議員の方が多くなる可能性もある。

<西村委員>

次回から増えるのではないか。

<菱田委員長>

任期はあと2年ある。提案だが、とりあえず直近の1年間は3会場×2日ずつで行い、その成果を見て、それを踏襲するのかどうかを来年の今頃に検討いただくかどうか。<了>

<菱田委員長>

その他の意見は参考とするが、土日の開催はどうするか。

<木曾議長>

自治会は行事が多いので難しいのでは。

<西村委員>

人が集まらないのでは。

<木曾議長>

各種団体との意見交換は相手側の都合に合わせ、土日でも良いが。

<菱田委員長>

では従来通り、夜の開催とする。

地元議員の取り扱いについて

<木曾議長>

反対意見はどのくらいあったのか。

<事務局>

手元に資料がないが、反対は6人前後であったのではないか。

<山本委員>

どちらでも良いが、絶対に入らなければならないと決めなくても良い。

<石野委員>

参加者は地元議員に何を期待しているのか。入るなら司会などを担当する方が良い。地元の議員が責められることも出てくるのでは。

<苗村委員>

どちらでも良いが、ランダムにするのは避けるべきである。

<木曾議長>

地元の定義が難しい。どの範囲までを地元とするのか。

<西村委員>

地元に行くべきである。役割分担があるので、特に何をするということはないが、地元でやるのに地元の議員がいらないのはおかしい。

<明田副議長>

どちらでも良い。

<福井副委員長>

どちらでも良い。一度やってみてはどうか。

<菱田委員長>

先ほどと同じように、1年間地元議員を入れてやってみて、経過を見てまた1年後に判断しては。地元議員の定義は、開催地の自治会のエリア内に住んでいる議員という位置づけでどうか。そうしないと定義が定まらない。

<木曾議長>

地元という定義が何かを皆で意思統一しておくべきである。

<菱田委員長>

住所地という考えでいけば、例えば西口議員、中澤議員、堤議員にとって千歳町は地元とは言わない。

<木曾議長>

だが千歳に、その3人のうちの誰かが入る可能性がある。その際、なぜあの人は来て他の2人は来ないのかとならないか。

<菱田委員長>

どちらでも良いという意見と、入れたら良いという意見があり、トータルすると地元議員を入れていこうという方向で判断した。

<事務局長>

それはあえて入れるのか。

<菱田委員長>

あえて入れないと具合が悪い。そのあえて入れる地元という定義を、自分の住所を含む自治会とするということである。

<木曾議長>

常任・特別委員会を配慮した中で、3班にうまく配分できるのか。

<菱田委員長>

入れ方については次回に議論する。

<明田委員>

組めないなら戻さざるをえない。

<木曾議長>

地元に行く議員と行けない議員があるといけない。不満が出てくる。

<菱田委員長>

事務局と調整し、パターンを作る。

<苗村委員>

1つの自治会に地元議員が複数いる地域は限られている。そこがどうなるかシミュレーションしては。

<西村委員>

地元議員がいない地域にも問題はある。例えば千歳町に西口議員だけが行ったとしたら、千歳町の担当は西口議員であると認識される。

<木曾議長>

地元という定義をきちんと決めておかないといけない。

<事務局長>

地盤と住所は違う。地盤の話をしてはいけない。

<明田委員>

議員の認識より参加者の認識を整理しておかなければいけない。

<菱田委員長>

来年1年間のパターンを組んでみる。2月で常任委員会等が変わることが考えられるが、とりあえず現状で一度パターンを組んでみて、判断いただくのでどうか。

<木曾議長>

たまたま地元議員が当たって仕方がないということなら分かるが、議会報告会は全体で行くのであり、地元の話をしに行くのではない。全員で行くのなら問題ないが、それ以外の手法をとったらもめるのでは。

< 菱田委員長 >

とりあえずパターンを組んでみて判断いただく。次回も継続して審議する。

- 決定事項の確認 -

- ・ 1 ページ目の議会報告会の実施目的は基本条例の第 7 条に基づいて今後行うが、名称については今後議論していく。
- ・ より多くの市民に議会の考え方を伝え、意見を聞く機会を増やすために、定例会ごとに 3 会場 × 2 日とし、1 年で 2 3 自治会を 1 巡する。
- ・ 地元議員の取り扱いについては、パターンを作り次回検討する。

(2) 次回の委員会の日程について

< 菱田委員長 >

招集告示の日で良いか。 < 了 >

~ 1 6 : 3 8